

神奈川県行政不服審査会 付言集（令和３年度）

第１部会（３件）

【R2-144】（生保案件）＜答申：令和３年11月17日、裁決：令和３年12月８日＞

処分庁が被保護者に配付する「生活保護のしおり」について、その記載からは、「公共交通機関を利用した場合」が通院交通費の対象となり得ることが、必ずしも明確であるとはいいがたいものであると考えられる。

このため、被保護者に対する十分な情報提供の観点から、『公共交通機関を利用した場合』には通院交通費の支給対象となり得る」ことが、被保護者に配付される資料においても明確に記載されるよう、工夫、改善がなされることが望まれる。

【R3-901】【R3-902】（税案件）＜答申：令和４年３月24日、未裁決＞

行政不服審査法上、審理員が審理手続を終結したときには、その旨並びに審理員意見書及び事件記録を審査庁に提出する予定時期について、審査請求人に通知することが求められている（第41条第３項）が、本件審査請求においては、それがなされていない。

この規定は、審理手続の透明性を確保し、手続の見通しに係る予見可能性を高めるという観点から設けられているところ、その後、審査庁において、当審査会に諮問した旨の通知及び審理員意見書が審査請求人に送付されており、これにより、事実上、審理手続が終結したことを審査請求人が認識できたと考えられることに鑑みれば、当該不備は、本件審査請求の結論に影響を及ぼす程度のものではないものと考えられる。

しかしながら、今般の不備については、行政不服審査制度に対する信頼を損ねかねないものであることから、今後、審理員においては、適正に審理手続を行うよう希望する。

第２部会（７件）

【R2-95】（生保案件）＜答申：令和３年６月28日、裁決：令和３年７月９日＞

なお、本件審査請求は、平成30年４月から賃料が50,000円に変更されることを、処分庁が同年２月には認識し得たにもかかわらず、４月以降も漫然と変更前の額である58,000円を認定していたことを背景とする。

受給者に対して不利益を生じさせるようなことのないよう、処分庁においては、確認体制の一層の強化等を図り、事務処理に万全を期すよう希望する。

【R3-4】（生保案件）＜答申：令和３年８月２日、裁決：令和３年８月16日＞

なお、本件審査請求は、平成31年４月から賃料が45,000円に変更されることを、処分庁が同年２月には認識していたにもかかわらず、旧賃料及び新賃料の日割により計算された３月分の額である45,612円を、４月以降も漫然と認定していたことを背景とする。

受給者に対して不利益を生じさせるようなことのないよう、処分庁においては、確認体制の一層の強化等を図り、事務処理に万全を期すよう希望する。

【R2-143】【R2-148】【R2-149】【R2-150】【R2-134】**（精神手帳案件）**＜答申：令和３年11月19日、未裁決＞

精神障害者保健福祉手帳には審査請求に係る教示についての記載がなく、その他本件処分に当たり、行政不服審査法第82条第１項に規定する書面による教示がなされた事実も認められないところ、等級を認定する処分においては、交付された手帳の等級に不服がある場合が少なくないことにも鑑み、手帳を交付する際には、書面による教示を併せて行うことが望まれる。

第3部会（1件）

【R2-17】（特別児童扶養手当案件）＜答申：令和3年6月2日、裁決：令和3年6月21日＞

本件処分に係る通知書には「2級程度の障害は『人工肛門を造設し、かつ、新膀胱を造設したもの又は尿路変更術を施したもの』とされているため、特別児童扶養手当等の支給に関する法律施行令別表第三に該当しません。」と記載されている。

しかしながら、かかる表現は、自身の子に人工肛門が造設されていると考える請求人に対し、「人工肛門状態」（弁明書）ではないがために同規定に該当しないということを理解せしめるには十分な表現とはいいいがたい。

処分庁におかれては、被処分者にとって、より分かりやすい理由の付記に努めるよう希望する。